

事業の目的

東中根高場線（高場陸橋）4車線化事業概要

本市と水戸市及び那珂市を広域的に繋ぐ、東中根高場線は、水戸勝田広域環状道路として位置づけられており、本市の多様な都市活動を支える重要な幹線道路であるとともに、防災上も避難道路や緊急輸送道路として重要な位置付けとなる都市計画道路です。

現在の交通量は、一日あたり約2万台にのぼり、JR常磐線を横断する区間では、那珂市方面からの車線が4車線から2車線に絞られているため、鉄道との交差点周辺で交通渋滞が常態化するなど、鉄道で分断された市街地間の円滑な交通流の確保が課題となっています。

このため、高場陸橋区間の4車線化を図ることにより、鉄道横断部周辺における自動車交通の円滑化はもとより、常陸自動車道や常陸那珂港へのアクセスの向上を図り、市勢の発展につなげるものであります。

高場陸橋4車線化イメージ図



期待される効果

①高場陸橋の渋滞緩和

現在の高場陸橋は、JR常磐線を横断する幹線道路として交通が集中するため、現橋やその周辺道路は朝夕の渋滞が常態化しています。

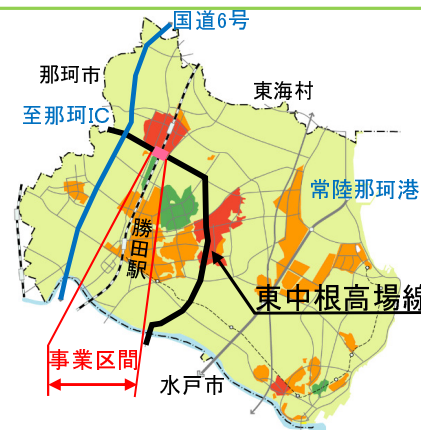
鉄道横断部の4車線化と交差点部の改良により鉄道横断部の交通の流れがスムーズになることで、高場陸橋周辺の朝夕の交通渋滞緩和が期待されます。



②アクセスの向上

本路線は、那珂IC、国道6号線と常陸那珂港をつなぐ、本市の経済活動を支える重要な路線です。

本事業により、那珂ICや常陸那珂港のほか、鉄道の東西に立地する企業間のアクセスが向上することで物流の効率化が図られ、経済発展に寄与します。



③危険な踏切利用等の減少

高場陸橋の渋滞を回避するため、近傍の歩道のない狭隘な踏切や生活道路を迂回する車両が多く、歩行者、自転車などの危険な状況が見受けられます。



4車線化により、このような迂回車両が減少し、踏切や生活道路を利用する歩行者などの安全性が向上します。

東中根高場線（高場陸橋）4車線化事業計画案

基本方針

- ◎新たな2車線道路(新橋)を現橋2車線の北側に増設して4車線化を図ります。
- このため・・・
 - 現橋は、橋齢100年を目標とし、長寿命化を図ります。
 - 新橋は、現橋に平行し、区画整理事業用地を活用して、整備を進めます。
 - 高場陸橋の全面通行止めを避けて工事を進めます。ただし、安全を確保するため、片側交互通行など交通規制を行うことがあります。

今後のスケジュール（目標）

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
新橋	地盤改良	盛土・擁壁工	下部工		上部工（JR委託）	舗装工事 交差点改良	
現橋	現橋を延命化するための修繕工事					令和6年度中 供用開始予定	

整備概要

